




地質サイトカード

カードNo.	A-②-5	通しNo.	22	作成日	2025/3/10
サイト名	水道に潜む岩～ ^{にゆうどうしよ} 入道礁				
基本情報	エリア	島根半島 眺望サイト			
	区分	<input checked="" type="checkbox"/> 地質・地形	<input type="checkbox"/> 生態	<input checked="" type="checkbox"/> 文化	
	利用価値	<input checked="" type="checkbox"/> 科学	<input checked="" type="checkbox"/> 教育	<input checked="" type="checkbox"/> 観光・ツアー	
	所在地	松江市美保関町森山			
	アクセス	松江だんだん道路川津ICから約16km、約20分。境水道の中に見える。			
	周辺施設	<input type="checkbox"/> トイレ <input type="checkbox"/> 売店 <input type="checkbox"/> 飲食店 <input type="checkbox"/> 駐車場(台) <input type="checkbox"/> ウォーキングコース <input type="checkbox"/> サイクリングコース <input type="checkbox"/> 観光施設()			
	看板整備				
	留意点				
保護・保全	法規制・関連団体等				
	保全メモ				
サイトの解説	みどころ	境水道にある暗礁。			
	地質・地形	<p>境水道は細長い水路で、東西に7.5km、狭窄部では215mほどしかない。『出雲国風土記』に海産物の多さは、言い尽くせないとまで記された場所である。</p> <p>この地域は、約2万年前の最終氷期には陸化していたが、氷期が終わった以降の水位上昇によって海となり、「夜見島(よみしま)」を経由して土砂が流れ着くようになった。また、江戸時代以降のかんな流しは、流れ出た砂によって弓ヶ浜半島を肥大化させるとともに、砂を境水道へと移動させた。1892(明治25)年の海軍海図によると、水道内の水深は3～4mほどで、深いところでも～6mほどであった。</p> <p>島根半島の陸の壁は、中海側と美保湾側の海水交換や弓ヶ浜半島沿岸の砂の流れをこの水路に集中させる要因になっている。したがって、島根半島のこの場所における形成は、現在の地形を理解するうえで興味深い。境水道沿いの島根半島には断層によって分断された成相寺層の流紋岩や古浦層の砂岩が分布する。水道内に点在する小島は、地質の南方域での広がりを確認できる唯一の場所となっている。「北国倒し(ほっこくだおし)」とよばれた保久島(ほっこくじま)や森山郵便局の沖にみられる入道礁(地域ではニイダグイとよばれる)がそれである。入道礁では島根半島で最も古い砂岩層が緩やかな北傾斜を示している。</p>			
	歴史・文化 生物・生態 等	保久島や入道礁は多くの船舶を座礁させた。境水道の入り口にある灯台は、水路を利用し続けるための近年の歴史を物語っている象徴でもある。灯台は、1931(昭和6)年に完成した。			
写真・図等					
参考文献	鹿野和彦・中野 俊(1985)美保関地域の地質				